

# 即戦力の工場長育成

## 名工大など 7割は「実践講義」 養成塾開校

名古屋工業大学と豊田自動織機、デンソー技研センターが共同運営する「工場長養成塾」が、13日開校した。名古屋市西区の産業技術記念館で行われた入塾式には、愛

知、岐阜、三重の中堅・中小企業16社の工場長や工場長候補16人が出席。17日から約4カ月間で延べ21日(148時間)にわたる実践講義がスタートする。

2007年から始まる高度経済成長を支えてきた団塊の世代(1947〜49年生まれ)の大量退職を控え、多くの中堅・中小企業では、技術・技能の継承と経営に精通し、堅・中小企業の現場が抱

える問題を自ら解決できる即戦力の工場長育成を目指す。同養成塾は、経済産業省の「産学連携製造中核人材育成事業」の一環として実施される。カリキュラムは、名工大での工場運営に関する理論の講義や受講生の製造現場を教室とする実践講義、デンソー技研センターの生産模倣ラインを使った実習で構成。

7月下旬から9月上旬まで受講生を募集したところ、16人の定員に対して、55社から応募が寄せられるほどの人気を集めた。入塾式では名工大の松井信行学長がこの地域

のモノづくりの熱い思いを後世に伝える人材を育てたい」とあいさつ。塾長を務める名工大大学院の仁科健教授が開校宣言を行った。



名古屋工業大学などが開校した「工場長養成塾」の入塾式  
(13日、名古屋市西区の産業技術記念館)